

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	システム開発グループ演習2	
科目基礎情報							
開設学科	ITスペシャリスト科		コース名	モバイルアプリ専攻		開設期	後期
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	90時間
単位数	3単位					授業形態	実習
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する						
担当教員情報							
担当教員	黛 宏明			実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア		
学習目的							
与えられた仕事(課題)をよく理解し、自主的な準備、調査、議論、チームワーク力により問題解決する力を養う。システム開発の一部分を演習形式で体験することにより、具体的な実務の流れや考え方を理解することを目的とする。チームで1つのシステムを作成していくので、チーム開発特有の多くの気づきを得ることができる。最後の成果発表会では、チームごとに開発成果を発表することで、システム開発プロジェクトの一員となるための総合力(プレゼンテーション力、コミュニケーション力、実装力、およびテストに必要なスキル)を磨く。							
到達目標							
システム開発の各工程の役割と工程間の連携の重要性を理解し、システム開発の各工程に必要な作業と成果物を説明できることを目標とする。Webアプリケーション開発では、基本設計、詳細設計、プログラムの作成、単体テスト、デバッグができることを目標とする。また、コミュニケーションにおいて、開発に必要なホウレンソウを実践でき、チームの一員として割り当てられた役割を遂行する。スケジュール管理の重要性を知り、自分の進捗が管理できることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	本授業では、サーバサイドプログラミング言語(PHP)とデータベースを使用し、チケット販売会社「株式会社ひあ」のチケット先行予約システムのプロトタイプを作成する。授業はグループで協力しながら作業を進めて、仮想顧客の要望を満たすシステムを開発する。グループ演習においては、バージョン管理システムも使用する。ソフトウェア開発工程のうち、基本設計から関わりプロジェクトを成功に導く。ソフトウェア開発の各工程を経験し、開発したシステムの納品・プレゼン(報告会)を行い評価する。						
注意点	授業はグループで協力しながら作業を進めるため、遅刻・欠席をする場合は他のメンバーに迷惑をかけてしまうことを念頭に入れること。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は、他のメンバーに連絡を取って全体の作業に遅延を生じないようにすること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価の対象とならない。 前提知識:PHPプログラミングとSQLの基礎レベルが学習済みであること。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	90%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画(1回～15回)							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	ガイダンス			スケジュールの把握、チーム、役割分担などを決める			
2回	漂流脱出ゲーム			グループワークを通じてコミュニケーション力を育成する			
3回	バージョン管理システムの利用			バージョン管理システム(Subversion)を使ったファイル管理ができる			
4回	システム開発演習:計画			システム開発のプロジェクトに必要なガントチャート(全体計画)を作る			
5回	システム開発演習:設計(1)			基本設計書の作成:ドキュメント規約にもとづき基本設計書を作る			
6回	システム開発演習:設計(2)			詳細設計書の作成:ドキュメント規約にもとづき詳細設計書を作る			
7回	システム開発演習:製造(1)			製造:詳細設計書のもとにしたプログラムを作成できる			
8回	システム開発演習:製造(2)			製造:詳細設計書のもとにしたプログラムを作成できる			
9回	システム開発演習:製造(3)			製造:詳細設計書のもとにしたプログラムを作成できる			
10回	システム開発演習:単体テスト(1)			単体テスト仕様書の作成:ドキュメント規約にもとづき単体テスト仕様書を作る			
11回	システム開発演習:単体テスト(2)			単体テストとデバッグ:単体テスト仕様書にもとづきテスト結果を記録できる			
12回	システム開発演習:結合テスト(1)			結合テスト仕様書の作成:ドキュメント規約にもとづき結合テスト仕様書を作る			
13回	システム開発演習:結合テスト(2)			結合テストとデバッグ:結合テスト仕様書にもとづきテスト結果を記録できる			
14回	成果発表会の準備			グループワークを通じて作成した成果物を顧客にプレゼンできる			
15回	振り返り、成果発表会			システム開発を振り返り、グループ演習で得た成果や反省点を発表し共有する			